

# 自己評価報告書（2024年度）

洗足学園中学校・洗足学園高等学校

## 1. 学校教育目標

- ①常に成長を目指し努力し続けられる人物（自立）
- ②世界で活躍できる能力を有した人物（挑戦）
- ③謙虚に自分を見つめ喜んで奉仕できる慈愛に満ちた人物（奉仕）

## 2. 本年度に重点的に取り組む目標・計画

- ・自らを律し、他と協調し、他を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を持った生徒を育てる。
- ・6年間を大人になるための準備期間として、責任ある市民として自己決定・自己判断ができるよう論理的に突き詰めて思考する力を育てる。
- ・主体性を持って行動できる生徒を育て、学習面・生活面でも他律から自律へ切り替える。

## 3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
学力形成 学習指導 進路指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・新カリキュラム、新設科目「情報特講」の円滑な運用を行い、より高度な授業を行えるよう改善案の策定し、実践した。</li><li>・ルーブリック評価を発展的に運用し、質の高い授業を実施した。</li><li>・評定算出に関する内規の見直しを行い、現在の本校の現状に即した新しい内規の策定を行った。</li><li>・「総合的な探究の時間」実施講座を13講座に増設し、学びの幅を拡大した。</li><li>・教科・科目という垣根を越えて、「教科融合授業」を深化させ、幅広い複眼的な視点から物事を見つめられる能力を育成した。</li><li>・グローバル社会への対応の一つとして、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの強化のため全学年でネイティブの授業を実施した。</li><li>・「研究授業」「大学入試問題研究」などを実践し、教員の教科指導力の向上に関する取り組みを更に推し進めた。</li><li>・外部リソースを導入し「ロボットプログラミング講座」など授業を超えた高度な内容を実施した。</li><li>・生徒が一人一台所有するPCをはじめとしたデジタル端末を活用し、教員・生徒双方向での教材・課題の配信・提出、各生徒の進捗状況管理、グループでの意見交換などを実践し、ICTに関わる能力の向上を目指した教育に取り組んだ。</li></ul>

<p>人間形成 生活指導 各学年の取組 自治活動 学外活動</p>	<p>グローバル社会で必要とされるスキルを育むことを目的として、以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の取組 中学1年 国際理解教育、SDGs、中学2年 ボランティア、キャリアプログラム、いのちの授業、中学3年 研究論文、高校1年 インターンシップ、『進路から進学へ』、高校2年 『学校のリーダー』、と精神的な発達段階に合わせて活動した。</li> <li>・生徒の自治活動 生徒会・委員会・クラブ・体育祭・学園祭・など生徒が主体となって運営した。</li> <li>・「芸術科目・日本文化」「哲学対話」などを通して心を育てる教育を実践した。</li> <li>・学外活動（他流試合） 教育の柱である学外交流活動を積極的に推進し、350を超える活動に生徒たちが挑戦した。国際化学オリンピック世界大会、国際地学オリンピック世界大会、国際倫理哲学グランプリ、日経STEAM デジタルアート発表展覧会、トビタテ！留学 JAPAN 新日本代表プログラム、俳句甲子園全国大会、日経ストックリーグ、高校生ビジネスプラングランプリ、American Society for Reconstructive Microsurgery Annual Meeting など様々な分野で活躍した。</li> </ul>
<p>情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会を定期的実施し、生徒の状況をより良く知ってもらい、学校の方針についての理解も深めてもらった。</li> <li>・学年通信を月1回程度発行し、連絡事項の徹底、生徒自らの言葉で語る行事報告など学校と家庭の結びつきを強めた。</li> <li>・ホームページにて、一般の方々にも学校のことを理解してもらえよう学習面・生活面についての記事を、原則平日に毎日掲載し、常に最新の情報をトピックスとして発信した。</li> </ul>
<p>安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校管理システムにより生徒の登下校の状況を把握し、生徒の安全を図った。</li> <li>・いつ起こるかかわからない災害への備えとして、避難訓練を4月と9月に実施した。</li> <li>・年3回の施設点検実施により施設の保守を行い、安全管理を行うとともに快適な環境整備を実施した。</li> </ul>
<p>研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月と3月に全教職員を対象とした校内研修を実施した。外部講師を招いて「自立した学習者育成のために」をテーマとした研修、「生徒の心のサポート」について考える研修、中学入試から大学</li> </ul>

	<p>入試に至るまでの校務主任を講師とした研修、グループに分かれての学力形成、人間形成に関するワークショップを実施するなど、多岐に渡る研修の機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最先端の ICT 教育を実践すべく、「ChatGPT o1」をはじめとした生成 AI の活用方法を研究し、教育活動に生かした。</li> <li>・新任教員に対し校長・管理職・校務主任・学年主任・担任を講師として年間にわたり新任教員研修を実施した。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立 100 周年を迎えるにあたって学園での 100 年記念イベントに加え、中学高等学校独自の 100 周年記念行事を開催。外部講師による講演などを行った。</li> <li>・海外大学進学サポートとして、卒業生・教員による海外大学進学講演会を開催した。また、海外大学アドミッションオフィサーによる講演会を開催した。</li> </ul> <p>来校大学：Hamilton University, Sarah Laurance College, Grinnell College</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流について、ジャパンメトロポリタン模擬国連大会を主催し、対面形式で実施した。国内・海外から 56 校、420 名が参加する国際的な会議となった。</li> <li>・海外研修・留学プログラムを実施、学校提供留学 (2 プログラム) 12 名、語学研修 (7 プログラム) 86 名、学校提供外の留学・語学研修プログラムに 39 名が参加した。また、海外大学開催の模擬国連への参加。オックスフォード大学模擬国連に 7 名、ハーバード大学模擬国連に 9 名が参加した。</li> </ul>

#### 4. 総合的な評価結果

ICT を教育の中で活用すべく、人工知能を用いたソフトウェアを授業の中に取り入れ、最新の教育を提供できるよう積極的な取り組みを行った。また、数値化が難しく、客観評価を行いにくいコンピテンシー（行動特性）分野においても、AI を用いたソフトウェアを導入し、数値化及び見える化を図り、生徒との面談の中に取り入れることで、効果的な助言と生徒の自立へのサポートを行うことができた。

探究活動においては、独自の教科融合授業を更に進化させ、教科内での取り組みや総合的な探究の時間内での取り組みなど、多方向からのアプローチを行うことで、生徒たちの知的好奇心と能動的な姿勢、柔軟で深い思考力を育むことができた。

人間的な成長の促進に関しては、学校行事や部活動及び学外交流活動を通じて、生徒たちの自立心と自己肯定感を醸成し、能動的な行動を支援する取り組みを行うことができた。上記の取り組みから、学校の教育目標である「自立」「挑戦」「奉仕」の精神が生徒たちに根付き、その実践を着実に行うことができた。